

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザテラス西田橋
所在地	鹿児島県鹿児島市西田一丁目11番地1 (電話)099-213-0091
自己評価作成日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、やさしく、おだやかに」を理念に毎朝、朝礼で唱和しています。慌てず、職員のペースで仕事をするのではなく、利用者のペースで毎日過ごすよう心がけています。その人らしさを大切に、いくつになっても「私が私らしく」生活ができるよう利用者の生活歴を聞き出し、利用者との会話ができ、レクリエーションなどにも活かしています。脳トレに各自、色塗り、計算、壁絵作成など取り組み、1日2回、リハビリ体操の提供することで、下肢筋力の低下を図っています。家庭的な雰囲気です居心地のいい環境を目指しています。母体が土橋病院で、ほとんどの利用者が主治医は土橋先生であり、月に2回医師の訪問診療を受け、定期健診、薬の処方、予防接種など行えています。緊急時は、土橋病院との医療連携体制加算を算定しており、土橋病院の看護師と24時間365日連携が取れる体制を取っており、異常時の支持を仰いでおり安心して生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体が医療機関で、月2回の訪問診療と看護師と24時間医療連携体制で健康管理を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・「ゆっくり、やさしく、おだやかに」の理念のもと、利用者のペースで生活ができるよう、職員はその人らしさを大切に関わっている事で、利用者が明るく生き生きと過ごしていると、家族は感謝している。
- ・法人はメドレーアカデミーと契約しオンライン動画研修サービスでその人に応じて配信し、毎月1～2時間の動画視聴で課題をクリアしてスキルアップに努め、ケア業務に活かしている。実務者研修等のサポート体制もある
- ・職員間の連携がよく、利用者の心の動きに常に寄り添っている。管理者も職員の意見や相談等に対応している。また、職員の家族状況や体調を考慮し、希望休も取り入れ働きやすい環境を心がけている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、やさしく、おだやかに」を理念とし、毎日、朝礼で唱和し、共有することで実践できている。	理念はパンフレットに掲載し、ホールや食堂に掲示している。毎日、朝礼時に唱和、共有してケア実践し、日々各自が振り返り、次に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事に参加できていないが、町内会には加入しており、回覧板で確認をしている。	町内会に加入し回覧板で地域行事等の情報を得ている。地域行事はコロナ禍で自粛中であるが法人で携わり管理者のみが参加している。散歩や買い物時に地域住民と挨拶している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進委員会にて民生委員に支援の方法などを伝えている。また、地域の行事に管理者が出向き、認知症の理解について話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の民生委員と包括の職員を交えて会議を行い、サービスの向上に活かしている。	定期的に少人数で対面開催し、入居者状況・行事等の活動報告・事故報告等をして、意見交換し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者の様々な制度などの手続きや施設運営に関する手続きなど、わからないことは電話や窓口で相談している。	市担当者とは直接出かけたり、電話で手続きや施設運営に関する点等を相談し助言を貰っている。生活保護担当者の訪問時、利用者との面談後、状況報告し、日頃から電話で情報共有し協力関係にある。市主催の研修に動画視聴し報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	規定通り、3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し勉強会を開催しており、職員間の意識向上を図っている。いかなる場合でも身体拘束は行わない方針であり現在も守られている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催しマニュアルの内容確認、資料を参考に言葉遣い等の事例から学んでいる。「ちょっと待って」等、不適切言葉が聞かれたら声かけ指導している。センサー使用時、家族の許可も得て、使用中はミーティングを実施し記録している。日中の玄関施錠はせずに散歩やコンビニへ寄り添う買物支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設置義務が来年度から義務付けられているため、定期的に勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中には成年後見人制度を利用している方がいるため、身近に感じており、担当の後見人とのコミュニケーションもはかれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書及び重要事項説明書の説明を丁寧に行い、内容を理解していただいた上で契約を行っている。専門用語など使用しないよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナまん延防止のため面会に制限はあるが、毎月面会に来られる家族もいる。行事ごとに写真と手紙を送ったり県外の家族とはラインビデオで会話を楽しめる工夫をしている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時に状況報告後、意見を聞いたり、行事毎に利用者の写真と状況を一筆し郵送報告やラインビデオで利用者と会話し意見や要望等が言える機会を設けて対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常に職員の体調や精神面に気を配り言葉をかけるよう努めている。	意見や提案は申し送りノートやグループラインから情報を得ている。各ユニット毎やユニットリーダーからの意見や提案も聞いている。日々の関わりでも声かけし、相談にも対応している。家族状況や体調を考慮し休みたい時や希望休を取り入れ働きやすい環境を心がけている。クッションやシャワーチェアを購入しケア業務の改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	休憩時間の確保や残業がないよう業務の見直しを行っておりほぼ残業はない。1年に5日の有給休暇の取得もできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回はいろんなテーマで勉強会を開催している。1人1人の経験年数や力量に合わせて、スマホやパソコンで研修も行える体制作りもできおり知識向上ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でできていないが、書面やスマホ、パソコンで勉強できる仕組みを作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学を必ずしていただき、入居前に事前面談を行い、在宅時の生活環境の聞き取りを行い、安心して生活をしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を必ずしていただき、入居を決断されたご家族の思いを組み入れ、安心して生活ができるよう関係作りに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いのズレに配慮しながら、アセスメントを行い、本人の残存能力を見極めその人の必要なケアを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近づきすぎず、離れすぎず一定の距離を置いて接している。一緒にお茶を飲んだり歌を歌ったりレクリエーションをしたりして、できるだけ役割を持っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や電話などで話をしたり行事ごとの写真入りの手紙を送付したり情報の共有をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため難しいが、家族にも協力していただきながら、なじみのお店や美容室に行けるよう工夫している。	コロナ感染5類移行後、時間や人数制限はあるが、対面での面会やラインビデオ電話での交流を大事にしている。電話や手紙の取次や近隣での買物支援をしている。家族の協力で馴染みの美容室や買物支援・墓参り・法事にも参加し、関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や認知症の状況などを考慮し、良好な関係が築けるよう席位置を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難になった場合でも切り捨てることはせず、次の住み家の提案やフォローは行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人と真摯に向き合い、本人の思いや希望にを聞くよう努めている。	日々の関わりの中で特に入浴時や夜勤帯・お茶の時に思いを聞く。言葉を選びながら寄り添っている。困難な場合は声かけし待つ姿勢で、表情や態度等を把握し、家族に相談したり、生活歴や現在の生活から職員間で話し合い、本人の思いに添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、生活歴を把握し本人と早く馴染の関係が気づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	終日、集団行動をしているわけではなく、安全を考慮し自分の部屋で自分の時間が持てるよう工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する前は、本人や家族と話し合い、要望をうかがうようにしている。	本人や家族の意見や要望、主治医や看護師の意見を参考に担当者会議で職員間の意見を基に趣味など反映させ現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、6ヶ月で見直している。状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での意見の交換や記録を参考に、定期的なモニタリングを行い、サービスの評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のいない方、県外に家族がいて協力が難しい利用者に対しては、職員が専門医に受診をしたり日用品の購入などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅に近いので、地域資源は利用しやすい。食材は近くのスーパーやコンビニを利用。また、馴染の美容室や電気屋さんを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が、病院のため利用者のほとんどが、かかりつけ医としていて、月に2回訪問診療があり診察や薬の処方を行っている。歯科を希望されている利用者には、訪問してくれる歯科を案内している。	契約時かかりつけ医の希望を聞いている。ほとんどが協力医療機関で月2回の訪問診療と看護師による健康チェックを実施し、24時間医療連携体制で適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて歯科医の週1回訪問診療も有り、他科受診は基本は家族同伴であるが職員が同伴することもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており土橋病院の看護師といつでも連携が図れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院と速やかに適切な情報を提供できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に今後の在り方について話をしている。施設のハード面で安全にケアができない場合や医療的ケアが必要になった時の場合は次の行先の検討をお願いしている。	入居時にマニュアルに基づいて説明し同意書を貰っている。状態変化時は管理者から現状を説明し、重度化した場合は主治医から病状やADL状況について説明を行い、家族の意思確認し、家族の思いに添う支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は、研修を行っている。また、マニュアルも作成しておりそれに沿って対応できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修を行っている。消防設備点検なども実施している。火災・地震発生時のマニュアルはフロアの掲示している。非常時の備蓄食材は、法人内で管理されている。	年2回昼夜想定自主訓練で避難誘導訓練や避難経路や避難場所を非常階段の踊り場など確認している。防災機器の点検は年2回業者依頼で実施している。関連施設との協力体制を構築している。コロナ禍で消防署立会は出来てない。備蓄は水・レトルト食品・ご飯・缶詰等、3日分準備している。ヘルメットもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	帰宅願望が強かったり短期記憶障害があり「ご飯を食べていない」などの発言があるかたでも尊厳をもって言葉かけを行っている。入浴に関しても個別に対応し羞恥心に配慮している。	法人で年1回、動画視聴で人権擁護や倫理法令・接遇マナー等を学び、事業所でも毎月動画視聴で研修を受け重要性を確認している。排泄時や入浴時は羞恥心に配慮した対応で皮膚状態の観察や希望時、同性介助で対応している。入室時ノックし、苗字で声かけしている。自分の好きなものを自己決定出来るよう環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや脳トレなどの参加は、無理強いせず本人の意思任せている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、本人のペースに合わせて生活をしているが、食事や入浴の時間などは決めさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お化粧される方には、していただき、なじみの美容院があるかたは、ご家族に連れて行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部に注文している。季節に合わせ栄養のバランスの摂れた食事を提供している。片付けや茶碗洗いなど一緒に行っている。	主食のご飯はホームで準備し、おかずは外注している。盛りつけや食形態も利用者の状況を考慮している。行事食の献立表もある。誕生日はケーキでお祝いしている。事業所で梅ジュースを作りゼリーやクレープ作りで好きな果物のトッピングで食べる事を楽しんでいる。片付けや茶碗洗い等を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事の提供を行っている。コーヒーやココア、紅茶など本人の嗜好に合わせて提供している。1日の水分量はしっかりチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。口腔内に違和感がある方は、訪問歯科を受けれるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意のある方が、ほとんどで自分でトイレに行かれる。尿意・便意がない方は、定時のトイレ誘導やパット交換を行い、自尊心に配慮し、速やかに交換している。	排泄パターンを把握し、それぞれの時間帯に耳元で声かけし、トイレ誘導したり、見守りでトイレ排泄支援している。排泄用品は布パンツやリハビリパンツにパットであるが、夜間はポータブルトイレ使用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動とバランスの摂れた食事の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回、提供している。拒否がある場合は、無理強いせず本人のペースに合わせている。	週3回、浴槽やシャワー浴と足浴支援をしている。浴室や脱衣場の環境を整え、湯温は40℃前後で調整している。拒否がある場合は時間をずらしたり、無理強いはせず翌日支援し全身清拭や陰部洗浄支援の時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人の望む時間に合わせている。定期的に巡視をしており、室温や湿度、睡眠状態の確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	西田調剤薬局と連携しており、薬の作用や注意点など確認している。服薬の際は、必ずダブルチェックをしており誤薬がないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される前には、必ず生活歴を伺い、コミュニケーションを取れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染に注意を図りながら買い物外出などは家族にお願いしている。近くのコンビニには、一緒に外出している。	コロナ禍で外出は自粛中であるが、天気の良い日は散歩や外気浴・買物に出かけている。家族の協力で墓参りや法事への参加・買い物等に外出している。ホーム内の全フロアで夏祭りを実施し、射的・魚釣り・宝釣りをしたり、わたあめやかき氷・たこ焼きを作り、好きなものを引換券で買う等で楽しめる様工夫して気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持している方もいるが、家族からお小遣いを預かっておりその中から、消耗品や嗜好品を購入している。また、散歩の途中で自動販売機でジュースを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている方は、自由に家族や友人と話をしている。ないかたは、ホームの電話から家族に電話している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節感を感じられる工夫をしている。室温や湿度、音や光、臭いなどにも十分配慮している。	共用空間は空気清浄機・加湿器・換気・消毒を徹底し、採光は防炎カーテンで調整している。温湿度計を見ながらエアコンで調整し過ごしやすい環境を心がけている。季節感のある壁画、職員が描いた龍の干支を掲示し、塗り絵や折り紙で作成した作品を飾っている。テレビ・テーブル・椅子・ソファがあり、好きな場所で自由に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や相性などに考慮し席位置には十分配慮している。ソファでゆっくりしたり自分の部屋でくつろげるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家からタンスを持ってきたり仏壇、家族の遺影は位牌など持ち込んでいる方もいらっしゃる。	居室は電動ベッド・タンス・エアコンを設置し、寝具類は持ち込みである。仏壇や位牌・遺影・タンス・テレビ・時計・ハンガーラック・家族写真・ぬいぐるみ等があり、新聞を読んで過ごす等、居心地よく過ごせるような居室となっている。シルバーカーや歩行器の持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を把握し、できることはしていただき、いつまでも自分らしく生活ができるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない